北方領土新聞

2013年2月2日
中標津町立
中標津中学校

北方領土について

◆北方領土とは

北方領土とは、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島からなる日本固有の領土です。

一九四五年八月、当時有効であった日ソ中立条約を無視して、ソ連軍が北方領土に侵攻し、不法に占拠しました。その後六十七年間、ロシアに不法占拠されている状態が続いています。

◆当時の人口

一九四五年八月十五日には、合計一万七千二百九十一人もの日本人が住んでいました。ですが、現在元島民の方々は、七千七百五十人(二〇一一年三月三十一日現在)に減少しています。今では、一万六千三百五十四人(二〇一〇年一月一日現在)のロシア人が生活しています。

◆自然や動物

北方領土はとても自然が豊かです。エトピリカやオジロワシ、チシマウガラス、クマゲラ、エゾライチョウ、キタキツネ、ヒグマ、クロテン、ゴマフアザラシ、オットセイ、トド、クラカケアザラシなどたくさんの動物がいます。

北方領土周辺は親潮の影響で、豊富な水産資源がありました。

当時の歯舞群島では、コンブ漁が盛んで、その他にもニシン、オヒョウ、タラなどの魚類や、ズワイガニ、花咲ガニ、タラバガニ、ホッカイエビなどの甲殻類、ホタテ貝、ホッキ貝などの貝類も捕れました。

一九四〇年頃の北海道全体の水揚高のうち、北方領土は二十三%を占めていました。

択捉島の散布山

元島民、佐藤さんにインタビュー

佐藤健夫さん

北方領土の昔と今

テレビやラジオもない、まさに自然そのものが命を守っていました。自然に囲まれたのんびりとしたのどかな場所でした。その時に比べて、今の北方領土は全体的に近代化しています。建物は当時よりカラフルになり、夜は街灯が灯り、道路も舗装され埠頭も整備されるようになってきています。

領土問題について

日本政府は、足元を固めなければなりません。日本国民は北方領土問題についての認識が低く、返還要求運動が盛り上がりません。なので、国民はもっと北方領土問題への意識を高めるべきです。

北方領土返還要求運動の昔と今

◆返還運動の始まり

終戦の年、昭和二十年の十二月一日、当時の根室町長安藤石典が連合国最高司令官マッカーサー元帥に対し「歯舞群島、色丹島、国後島及び択捉島は、古くから日本の領土であり、地理的にも歴史的にも北海道に附属するこれらの小諸島を米軍の保障占領下に置かれ、住民が安心して生業につくことのできるようにしてほしい」といった内容の陳情書を渡したことが始まりとされています。

根室町長 安藤 石典

◆署名活動について

北方領土返還要求の署名活動は、国民の意思を伝える手段として全国で行われています。

平成二十三年度には、九十五万四百二十三名の署名が集まりました。

署名活動の様子

総署名数は平成二十四年三月末現在で、八千三百九十一万名を超えています。このように集められた署名は、国会への請願の際に提出されています。

◆北方領土返還運動 全国強調月間 &北方領土の日

毎年、八月と二月は「北方領土返還運動全国強調月間」で、その月には全国で集会や講演会、キャラバン隊の派遣、パネル展など、色々な行事が行われています。

北方領土の日とは、全国的な北方領土返還要求運動をもっと活発なものにするため、日魯通好条約が締結された日にちなみ、二月七日に制定された記念日です。

◆北方領土返還要求運動のこれから

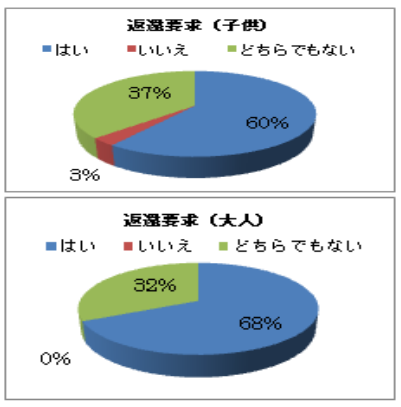
領土問題を解決するためには国民一人一人がもっと北方領土問題に関心を持ち、返還要求運動を盛り上げ、国の外交交渉を後押しすることが大切です。

しかし、今回のアンケートなどの結果から、若い世代の領土問題に対する関心が低いことがわかりました。ですので、私たち若い世代が領土問題について、もっと知り、意識を高め、北方領土返還要求運動を盛り上げていく必要があります。みなさん、北方領土問題に関心を持っていきましょう。

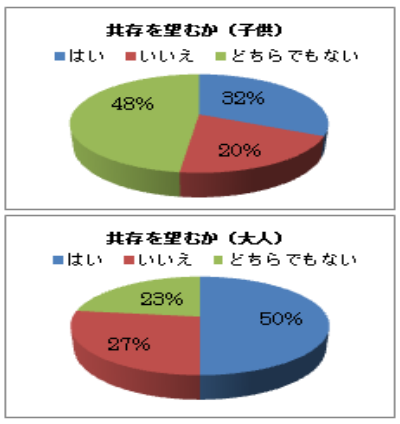
大人と子供 考えの違い

私たちは北方領土問題への国民の意識が大人と子供でどのくらい差があるのか調べるために、私たち中標津中学校の三年生と先生にアンケートを採ってみました。

「北方領土を返してほしいですか？」という質問に対して、中学三年生の中では返還要求に賛同する人が六割を占めていました。一方先生の中では、生徒を上回る六十八%の賛同が見られました。やはり大人でも子供でも北方領土を返してほしいという声は多いようです。



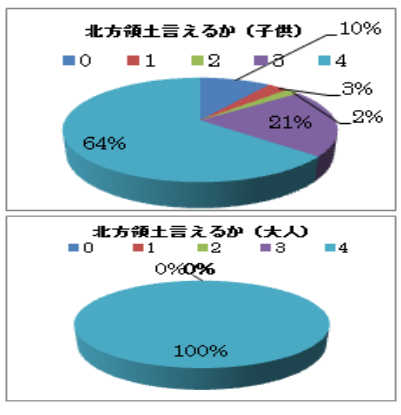
続いて、「北方領土でのロシア人との共存を望みますか？」という質問では、子供の意見は、賛同するが三十二%と少ない中、大人は半分の人が賛同という、子供の意見とは、大きな差が出てきました。



最後は、北方四島の島の名前をすべて言えるか調べてみました。

子供は、四島全て言えた人は六十四%と、思っていたより少なく、色丹島や択捉島にかなり苦戦していたようです。一方、大人はさすがというほどの正答率。全員が四島全て書けていました。

このアンケート結果から、やはり子供は北方領土問題から離れていることが分かりました。



編集後記

この新聞を作る事になった時は、北方領土問題は自分たちには関係ないものと思っていました。しかし、元島民の佐藤さんのお話を聞き、この新聞を製作していくうちに少しでも北方領土問題解決の力になりたいと考えるようになりました。この新聞を読んで、皆さんが北方領土問題について少しでも関心を持ってもらえればと思います。

【臼井聡汰・大久保郁弥・長縄拓郎・中野朔弥・日原祐希】